

平成24年11月14日

発行
NPO法人
まめってえ鬼無里

住所 長野市鬼無里
日影 4258-1

電話 050-3736-6218

FAX 020-4622-9939

毎月1回ぐらい発行

まめってえ鬼無里




紅葉が自慢の鬼無里奥裾花溪谷

今年も多くの方々に赤や黄色に色づいた美しい景色を見ていただきました。特に今年はケヤキやもみじの色が見事で近年では一番の美しさだと自慢できるほどでした。10月で自然園は冬期間閉園となり、すでに雪の季節へと変わり、葉を落とした溪谷の木々は白く化粧直しです。

11月・12月イベント(他団体主催)

※は要申し込み

11月25日(日)

きなさ市 フリーマーケット 料理教室※

12月16日(日)

きなさ市 フリーマーケット 料理教室※

初めての麦作りが大成功?

賛助会員の米山さつきさん(86歳)の畑を借りて小麦(ユメセイキ)の種を蒔いたのは、今年の10月20日のことでした。一昨年の暮れにご主人が亡くなられるまで、夫婦二人三脚で葉タバコの栽培をしていた15aほどの畑を「草だらけにするのはとても悲しい。まめってえで何とかしてくれないか?」と相談がありました。堆肥を施し土づくりの行き届いた見事な畑を不耕作地にしてしまうのは、本当にもったいないことです。早々に麦の種を準備して蒔くことにしました。朝日に緑色の麦の若葉がキラキラと眩しく、日当たりのよい畑でぐんぐん成長し、農薬や化学肥料を使わなくても、見事に穂をつけてくれました。刈取りや脱穀のたびにさつきさんが漬物やお茶を持ってきてくれ、その度に感謝の言葉をいただきましたが、畑の草刈りや畑の管理をしてくださったさつきさんにこちらがお礼を言わねばならないと頭が下がります。市内の製粉所で粉に挽いてもらい185kgの小麦粉ができました。うどんやすいとんにあう品種です。どんな味がするのか食べるのが楽しみです。

田んぼくらぶ

オーナーさんと収穫を喜びました。

春に田んぼオーナーを募集したところ、今年は8名の方から応募があり、3枚の田んぼで「一緒に米作りをしました。雨の中の田植えに始まり、今年はお天気に困らされた年でした。稲刈りを予定していた日は、あいにくの雨。急きょオーナーさんとの昼食会に変更。稲刈りを楽しみにしていた子どもたちは食事を食べ終わると、理事長の古民家の探検でストレスを発散していました。順延した稲刈りでは、泥だらけになりながらも、初めて動かす稲刈り機や運搬機と格闘するオーナーさんが、春よりはずつとたくましく見えました。秋雨前線の影響でお天気が心配された脱穀は、何とか予定どおり行え、昼食にはさつきく精米した取れたての新米を食べました。かまどで炊いたご飯はとてもおいしく、釜の底のおこげのおいしさにみなさん何回もお代わりをしていました。帰りには収穫した籾をそれぞれ車に積んで帰っていただきました。

第4回食の文化祭 満席のバス、感動の文化祭

お天気が心配でしたが午前中はまずまずの曇り。ちょっくら前で開会式を済ませ一路諏訪神社へ。御柱の時の木遣りを聞くのは、ほとんどの参加者が初めてです。お参りをし、お礼とお神酒を頂き期待で気持ちがだんだん高くなっていくのを感じます。御柱を切り出して立てるまでのそれぞれの場面で演じられる木遣りを聞かせて頂き、参加者全員満足そうな顔でした。声のとおりが良くて大変感動的、ずっと残してほしい伝統行事です。

次は十二神社でかつて湖だった鬼無里のお話を聞き、待望峠では地元のガイドさんの案内で目の前から北アルプスまで広がる眺望と紅葉の素晴らしさに目を見張り、しばし現実を忘れる思いでした。

ふるさとの館での昼食はまた見事でした。稔りに感謝する行事食の説明を受けながら、数々の郷土料理をおな一杯頂きました。野菜中心の郷土料理に驚きの声も上がっていました。雨が降り始めましたが、野沢菜漬けの実演と文道公園見学を行い、最後は鬼無里神社で総代長さんから湖沼伝説など聞かせて頂き、また一つ鬼無里への関心が高まったと思います。4回を重ねた食の文化祭を地域の中でどのように生かしていくかが今後の課題です。

くいろは堂ギャラリー情報 > <http://www.irohado.com/> 火曜日定休 5・8・10月は無休
11月14日~12月3日 土屋久美子 陶芸・革工芸等
12月5日~12月30日 桑田弘雄 彫刻